



1 製材した丸棒



2 圧縮加工機



3 ローラーで圧縮加工



4 タンクに「圧縮加工処理材」を搬入



5 木材保存剤を加圧注入処理



6 高耐久性の土木資材「O&Dウッド」の完成

# O&Dウッドは

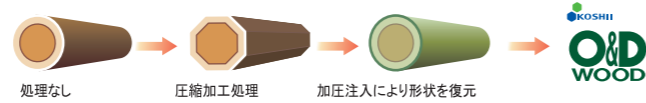
圧縮処理と加圧注入処理技術で  
土木構造物が要求する

品質・性能・耐久性を  
満たしています。

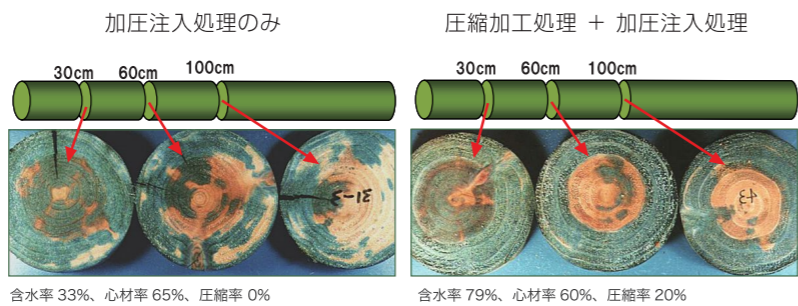
## 圧縮処理

圧縮効果により、木材保存剤の浸透度が向上します。

圧縮処理した木材に、木材保存剤を加圧注入する最新技術を導入。構造物を構成する木材の1本1本が、極めてばらつきのない均一性に優れた高品質材となります。木材を圧縮処理することで、含水率70%を超える木材へ木材保存剤を充分浸透させることが可能になりました。



薬剤の浸透度比較 (写真) スギ間伐材、Φ90、2000mm



## 耐久性

公的なデータと大学との継続的な試験により、長期の耐久性を確認しています。

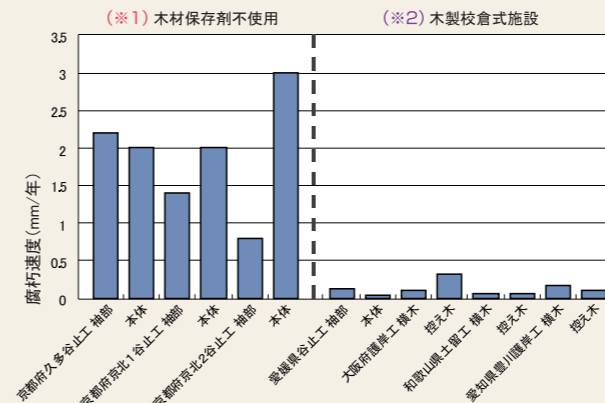
### 木製校倉式構造物(防腐処理)の腐朽速度調査

農博 東京農工大学大学院 石川芳治  
(株)コシイプレザービング 田次慶久 前田恵史 金岩岳彦



治山・治水施設のうちでも比較的大型で長期間機能を発揮することが期待される谷止工、護岸工、土留工等の構造物に木材を用いる場合には、施設の耐久性を考慮して設計および維持管理を行うことが重要です。そこで、施工後約6~15年経過した木製校倉(アゼクラ)式谷止工・護岸工・土留工について腐朽速度の実態調査を実施しました。

京都府木製谷止工(木材保存剤を不使用)校倉式構造物との腐朽速度の比較

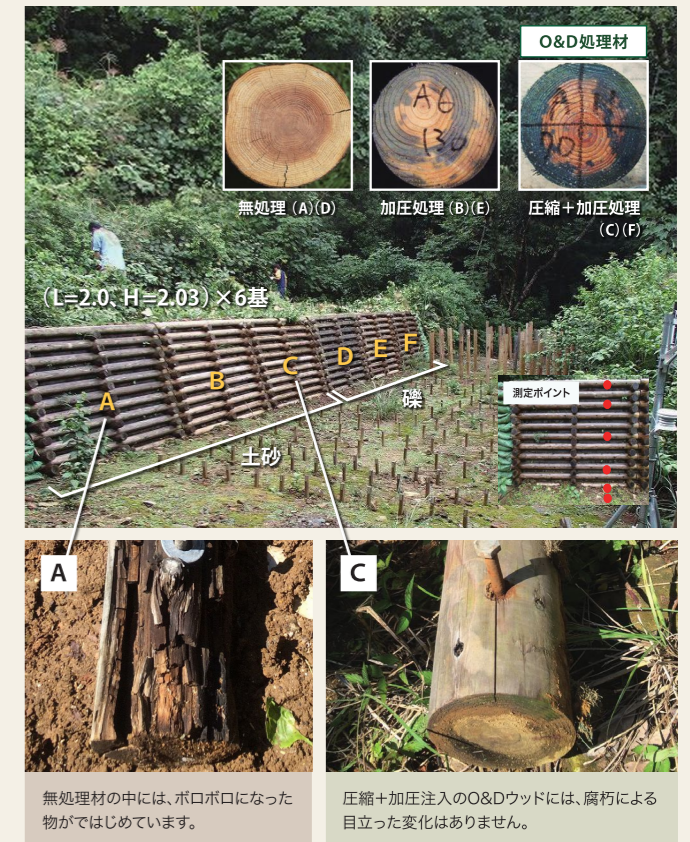


京都府に設置された木製谷止工の設置後5~7年間の平均腐朽速度と比較した結果を示す。(※1) 京都府の木製谷止工の部材はスギを用いており、木材保存剤は使用していない。(※2) 校倉式の谷止工・護岸工・土留工の部材の腐朽速度は木材保存剤を使用していない京都府の谷止工の部材の1/20~1/70と小さく、木製校倉式施設の部材は耐久性が極めて高いことが分かります。

### 平成23年度より、屋久島試験地にて「耐久性試験」を実施

農博 東京農工大学大学院 石川芳治  
(株)コシイプレザービング 田次慶久 吉田 幸

年間降水量が4000mmを超え、腐朽の発生が非常に激しい地域である屋久島において、平成23年より木製校倉式構造物の「耐久性試験」実施しています。試験地に3種類の木材×(土砂詰・礫詰)の6種類を設置し、それぞれの木材の耐久性を比較しました。



### 設置4年後の経過調査

無処理材の一部には腐朽菌が発生していましたが、O&D処理材(圧縮+加圧処理)はほとんど腐朽が進んでおらず健全な状態を保っていました。

## 筑波森林総合研究所(公的機関)との杭試験 27年経過しても木材に被害はありませんでした。



厳しい条件下でのテストを重ねた結果、マイトレックACQ(防腐防蟻効果)の長期耐久性を実証しています。設置後27年経過しても、木材に被害はありませんでした。